

〔掲載紙〕 ぐんま経済新聞「にちぎんNOW」

〔掲載日〕 2012年4月26日

〔テーマ〕 決算数字にみえるもの

JR新前橋駅近くの新前橋町公民館の建物は、ちょうど四半世紀前の1987年5月の竣工です。それを伝える記念碑は、ちょっと変わったものです。

建設事業の収支が詳しく刻まれているのです。支出総額4,505万円、うち本体建設費が3,247万円。これを3,000万円の寄付金を中心に、県・市からの補助金や借入金などで賄ったことが分かります。寄付金の多さが具体的にみてとれ、事業を進めた地元の方々の熱意やご苦労が鮮明に伝わってくるように思えます。無味乾燥にみえる会社の決算書をよく読むと、事業の様子が浮かび上がってくるのと同じです。

この時期、経理部署で決算作業中という方も多いでしょう。日本銀行も多くの企業と同様に、例年5月に年度決算を公表しています。それだけではなく月3回、貸借対照表の概要を公表しています。

日銀の貸借対照表はちょっと変わっています。銀行券（お札）が負債に計上されているのです。皆さんにとっての資産は、発行する日銀にとっては負債となります。でも、「負債を減らしたい」とは考えません。必要な量を発行するのが仕事ですから。銀行券は今年3月末で80兆円発行されています。

資産側で最も大きなものは87兆円の国債です。日銀では以前から、銀行券の増加ペースに合わせて市場から国債を買ってきました。加えて一昨年末からは、金融緩和を推進するために基金を設けて、これまで以上に国債の買入れを増やしています。今年2月には基金の規模を10兆円増額することで緩和を強化し、今年末までに19兆円の国債を買入れることになりました。

次いで大きな資産は金融機関への貸付金39兆円。今、力を入れているのは「成長支援」です。企業に対して成長分野で必要とされる資金を融資・出資した金融機関には、日銀から低利の資金を貸し付けて、取り組みをバックアップするものです。今年3月には中小企業にも資金が回りやすくなるように制度を拡充しました。日本経済がデフレから抜け出るためには、金融緩和だけでなく、日本経済の成長力アップが不可欠だと考えているためです。この資金、県内でも利用されています。

さて、群馬の経済とともに日銀の今をつづってきましたが、スタートから一年を区切り
に筆を置かせていただきます。ご愛読、ありがとうございました。

〔 日本銀行前橋支店長 〕
竹澤 秀樹